

## 厳島神社の東廻廊

厳島神社の東廻廊は、平成 26 年 1 月 15 日から部分修理を開始しています。7 月からは平舞台も修理される予定です。東廻廊は、神社に入って客人社を少し通りすぎた辺りです。平成 26 年 2 月に参拝したところ、すでに本来の廻廊の板は外されており、仮設の廻廊を取って御本社へ向かいました。

修理される箇所は、左手に「鏡池」を臨み、毎年旧暦六月十七夜におこなわれる管絃祭の折には、御座船と江波の漕船が進入して三回転する「枅形」と呼ばれる部分です。宮島の来島者は年間 400 万人を越え、そのうちの多くが厳島神社に参拝しています。参拝者が歩くことで廻廊の傷みが激しくなったということでしょう。



「絵馬を観る図」

(『芸州厳島図会』、天保 8 年(1837)、宮島学センター所蔵)

かつては床板の保護のために入口で草履に履き替えていましたが、現在は土足のままで参拝することができます。これは国宝の床板の上に別の床板を重ねて保護しているため、靴を履き替えることなく歩くことができるからです。

また、かつて厳島神社の廻廊には、「古美術の有名な画廊」と形容されるように

大型の絵馬がたくさんかかっていました。

江戸時代後期のガイドブックである『芸州厳島図会』には、廻廊を通る参詣者が、絵馬を見上げる様子が描かれています。

『宮島町史』(建築編)によると、明治 33 年(1900) 8 月 19 日、暴風と高潮で廻廊などが大破したため、社殿や廻廊にかけられていた絵馬が流出・破損しました。その後、特別保護建造物になったことにもなう明治・大正の大修理工事に際して、これら絵馬・扁額は廻廊から取り外され、千畳閣へ移されました。

東廻廊は、基本的な部分は守りながらも、実は長い間をかけて少しずつ、時代に合わせて変化を遂げてきました。廻廊を歩く際にはぜひ、昔の姿にも思いを馳せてみてください。



千畳閣内部の様子

(大知 徳子)

(「宮島学センター通信」第 5 号・2014 年 3 月)